



## 「かすがい女性連盟」の40年を想う

丸山 真由美(サーティネット'05)

私の所属する「かすがい女性連盟」は2026年3月で40年の歴史に幕を閉じます。

1986年3月「国際婦人の10年」の世界の動きに連動して、春日井市内で活動する女性団体・グループが集まって誕生し、「男女共同参画の理念が地域社会に定着すること」を目的に活動してきました。

最盛期には20以上の団体が所属し、春日井市から委託される形で「かすがい女性のつどい」や「シティセミナー」という講演会や連続講座を企画から運営まで行っていました。講師には上野千鶴子さんを始め、樋口恵子さん、佐高信さんら著名人から、ジェンダーフリーやDV、ワーク・ライフ・バランス、介護などその時々テーマにそった専門家を招いて学んできました。

私が30年前、最初に「かすがい女性連盟」と出会ったのも「かすがい女性のつどい」の講演会でした。「良妻賢母は夫・子ども・自分をダメにする？」というテーマに惹かれ、子ども二人を連れて参加しました。

その後、「かすがい女性連盟」の理事となった私は、会議や勉強会で外出することが増えていきました。夫の両親と同居する私には、なんとなく自分の用事で外出することへのハードルがありましたが(まだまだそんな時代だったのです...)、講演会や研修会で学ぶうちに「外出することも学ぶことも私の権利だ」と思えるようになりました。

講演会や研修会の企画・運営では、講師への交渉や連絡、また講演後にはテープ起こしをして、パソコンで原稿を打ち、報告書を作成しなければならず、知らず知らずのうちに自身のスキルアップにつながっていました。理事の中には、私と同じような経験をした人はたくさんいたと思います。「かすがい女性連盟」は正に「気付きと学びの場」だったのです。



かすがい女性連盟  
メインイラスト



「バーバラ・リーの闘い」上映会

時代は変わり「かすがい女性のつどい」や「シティセミナー」は終了し、春日井市が直接「春日井市男女共同参画セミナー」を開催するようになりました。時を同じくして働く女性が増え、だんだんと「かすがい女性連盟」に加盟する女性団体は減っていきました。残った団体も高齢化が進み「かすがい女性連盟」は団体加盟のみではなく、個人会員も受け入れることにしました。しかし会員の減少は止めることができず、団体から選出される理事も、理事から選ばれる役員もなり手が減り、ここ数年は同じ人が役員を続ける事態になっていました。そして40年の節目の年に「かすがい女性連盟」の活動を終了するという選択に至りました。「女性の社会への進出」というひとつの役目が終わったのでしょうか...

しかし「男女共同参画の理念が地域社会に定着する」という目的を達成したとは思えません。相変わらず春日井市の審議会等の委員は男性が多く、市議会議員の女性も増えません。自治会など地域も同じで、ようやく女性がトップを務めるところがいくつかあるようです。そうした中で、意志決定の場で女性などの社会的弱者の意見が反映されるのか...重要な課題が残ったことは心残りではありません。

私たちの世代までは、平日の昼間に活動できる人たちが大勢いました。働いていてもパートタイマーなどで、時間の都合をつけて活動に参加することができたのです。

しかしこれからは、フルタイムで働いていても、子育てや介護をしても、年齢に関係なく活動に参加できる方法や形態を考えないと人は集まりません。若い世代に引き継げなかったのは、そうした配慮の不足と「問題意識を持つことの重要性」を伝えきれなかったことなのかもしれません。いま 40 年の活動をまとめながら、つらつらとそんなことを想うのです。

## 2025 年度第 2 回学習会



### 「あいち国際女性映画祭 2025」に参加して～

学習会の一環として、(公財)あいち男女共同参画財団主催の「あいち国際女性映画祭 2025」における映画鑑賞、シンポジウム、トークイベントに積極的に参加しました。

その後、感想を述べる場を設け、意見交換を実施。性別、年齢、国籍などの違いを超えた多様な生き方や考え方に触れ、世界の女性を取り巻く社会状況や課題への理解を深める機会につなげました。

日程：9 月 21 日(日) 11:00～12:00

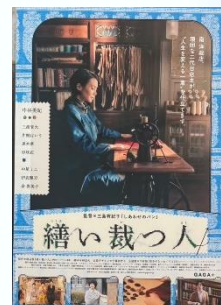
場所：ウィルあいちスタディールーム

参加者：12 名

～感想～

#### 1. 繕い裁つ人

懐かしい夢の世界を見た気がしました。祖母が丁寧に愛情を込めて手作りしたパーティーの服を孫が繕い、着る人の人生の心の流れを繋いで行く...物をつくる矜持が全編に満ち、また老いた人に優しいことだと思いました。



とにかく高齢者が多いと迷惑そうに語られ、社会の邪魔にならずに機嫌良く過ごしていなさい、と言わんばかりのご時世です。過去を知る人を大切にしないと、「昔来た道」の過ちがまた繰り返されませんか？



#### 2. 金子文子 何がわたしをこうさせたか

「現に在るものをぶち壊すのが私の職業です」

主人公の言葉、カッコイイ！！

逮捕のきっかけにもなった、関東大震災時の朝鮮人虐殺の事もちよっぽりですが、知見を広めることができました。いまだに事件の真相を認めず、公表しない日本政府。同じ日本人として恥ずかしい事実です。



### 3. 国際シンポジウム「わたしたちの今」

感想① 国際的な女性映画祭の代表や監督たちが語り合う姿から、女性監督が歩んできた道のりの厳しさと、それを乗り越えて作品を生み出してきた力強さを実感。浜野佐知監督の体験談は特に印象に残りました。1960 年頃、映画監督は大卒男子に限られていたため、浜野監督は高卒女子としてピンク映画の世界に飛び込んだそうです。300 本以上撮り続けてきたにもかかわらず、東京国際女性映画祭では「日本の女性監督の最多本数は田中絹代の 6 本」と紹介され、自らの作品は数えられなかったと語りました。



映画の感想を語り合う

困難な道を切り開いたパイオニア的存在の女性監督たちの努力が今につながっていることを知り、映画祭の持つ意義を深く感じました。

感想② 映画祭が単なる上映の場ではなく、国境を越えて監督同士や観客をつなぐ「対話の場」であることを改めて認識しました。

## 2025 年度第 3 回学習会

### 「タネはだれのもの」鑑賞と話し合い

ウィルあいち交流ネット 2025 学習会  
映画を見て話し合う  
～土が、人が、受け継ぐタネのはなし～

**タネは誰のもの**

森田登喜子。映画は決定で  
選ばれる日本の農業！  
「この学芸員賞のよさ」  
「田舎者、われらの田舎者」  
子孫にも、親の血脈を  
伝えよう。  
農業者の思い、  
子どもたちを思う親の心、  
すべてのいのちのつながり、  
自然の中のいのちのつながり……  
今、田舎の町で生きて  
くずしてまいりましょうか？

スーパーの棚から取り出されたシシトウの袋、農産物の袋はよく似たデザインが目を惹きます。  
「令和のシシトウ」と農産物の人々が「シシトウ」を産出した。米、麦、大豆の産物や「シシトウ」の産物が目立ち、食糧  
自給率 35%の日本です。食糧自給率はますます悪化しています。子どもたちのために日本の食料を守りましょう。

日時： 2025 年 11 月 30 日 (日)  
10:30～12:00

場所： ウィルあいちスタディールーム (2F)  
名古屋市東区「新町」1 番地 (地下鉄名鉄東山線新町駅 徒歩 5 分) TEL 052-962-2511

映画： 「タネは誰のもの」(65 分)

定員： 30 名 (申し込み順)

参加費： 500 円 (資料代を含む)

DVD 提供： 地域開発みちの会なごや SDGs 班

※ 申込み・問合せ 森田 (tokiko@sb.starcnet.jp)

主催：ウィルあいち交流ネット 共催：(公財)あいち男女共同参画財団

もぐもぐタイムで選手が美味しそうに食べていたイチゴが外国産と聞いて「えっ、どうなっているの?」と思った人が多いでしょう🍓

「なぜ?」に答える映画を鑑賞し、考えました。

日時：11 月 30 日(日) 10:30～12:00

場所：ウィルあいち(2F)スタディールーム

参加者：10 名



### DVD を上映して 森田登喜子(ウィル 2000 地域開発みちの会なごや SDGs 班)

最初に参加者の農業体験を尋ねました。2 名が農業に携わっておられ、実際の体験も話していただきました。現在多くのタネが海外で生産され、農業者は毎年タネを買わなければならないことは多くの消費者に知られていません。「知って良かった」という言葉が、アンケート結果に共通していました。

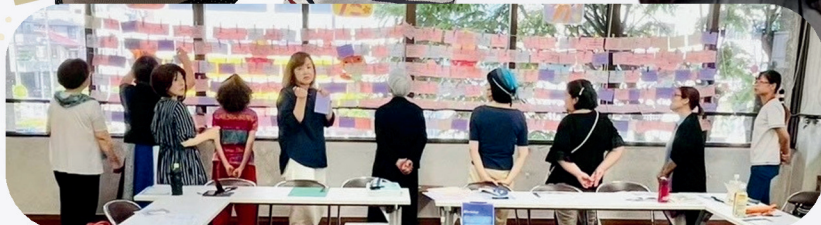
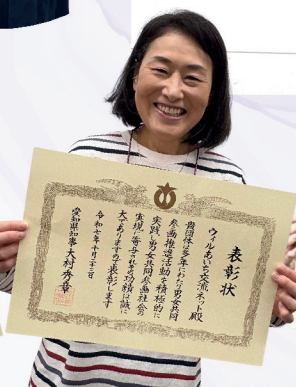
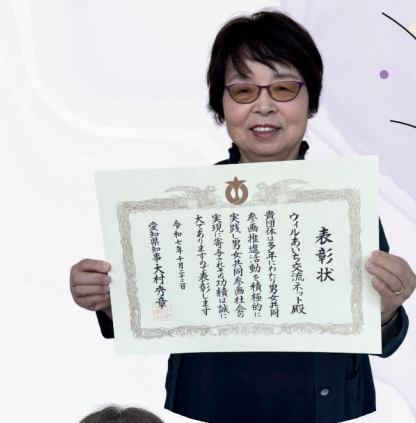
「食」や農業の問題は、生きるのに欠かせません。食品特に主食のお米については、高値になってはじめて大きな怒りや疑問をかき立てました。しかし、本来は国家や国際間の経済と結びついた大規模で根の深い事柄で、日頃から、それこそジェンダーフリーで考えなければならないことでした。女性のリーダーシップが必要とされています。



# 2025年度愛知県男女共同参画推進活動者表彰受賞



ウィルあいち交流ネットの25年にわたる活動が評価され、受賞しました。  
これを記念し、セミナーを開催します。ぜひご参加ください。



## 【愛知県男女共同参画推進活動者表彰】

愛知県が1984年(昭和59年)から毎年実施している表彰制度です。  
男女共同参画社会づくりを推進する上で顕著な功績をあげた個人や  
団体を対象に表彰を行っています。





# 田村 哲樹 氏

(名古屋大学 教授)

## 今あらためて考える 「男性にとっての男女共同参画」



2026年

2月1日 日 ※開場13:30  
14:00～15:30

会場 ウィルあいち 2F 特別会議室  
名古屋市東区上豎杉町1番地

参加費 1000円

50名(先着順)

申し込みはお早めに

事実婚やワンオペ育児などを実践した田村哲樹氏によるセミナー。  
制度と慣行のはざまで揺れる「男性の生きづらさ」に光をあて、  
誰もが自分らしい生き方を選べる未来をひも解いていきます。  
まずは共に知ることからはじめませんか。

【講師紹介】名古屋大学大学院法学研究科教授。1970年生。広島市出身。  
専門は政治学・民主主義論。2002年に名古屋大学の男性教職員で初の育  
休取得。2010年から現職。名古屋大学ジェンダーダイバーシティセンター  
副センター長、愛知県男女共同参画審議会会長なども務める。



【申込方法】右記QRコードよりお申し込みください

【問合せ先】✉ net.koryu@gmail.com (箕浦)



主催 ウィルあいち交流ネット  
共催 (公財)あいち男女共同参画財団  
後援 愛知県





## ウィルあいち交流ネットパネル展示



ウィルあいち交流ネットは、今年度で設立 25 年となります。この機会に(公財)あいち男女共同参画財団の呼び掛けに応じて活動紹介を展示することを計画しました。

展示準備中に愛知県男女共同参画推進活動者表彰受賞という大変嬉しい知らせが入りました。表彰式は展示期間中に行なわれましたため、表彰状の写真で展示に花を添えることができました。また、事業に参加された方々に展示を見てウィルあいち交流ネットを知っていただけたのは望外の喜びでした。

日時:10月19日(日)~11月7日(金)

場所:ウィルあいちライブラリー

### <展示内容>

- ・愛知県男女共同参画推進活動者表彰受賞記念 交流ネット 25 年間のあゆみ
- ・交流ネット通信第 117 号
- ・2025 年度の活動紹介



貼り付け風景 カンカンガクガク👂



立派な展示ができました！



通信 117 号  
各ページを見  
開きでご覧い  
ただけます！

ウィルあいち交流ネットは、2001 年ウィルあいちセミナー等の修了生の自主活動グループが結成

メンズリブ名古屋/ '女性学'98 の会/ グループ・キーツ/ ウィル 2000/  
I.W.L/ ウィル Do 2002/ サーティネット'05/ ベリーズ 18/ Step07/ Fem.'09/  
Amelie'10/ ひかるよ'15/ そだね! 2017/ Hey Say Final/ Reiwa'19/  
みつ 2020/ リモート 2021/ Women's Cup'22/ Lapin'23/ ME24/ (加入順)

2025 年 12 月発行

編集発行:ウィルあいち交流ネット 協力:公益財団法人 あいち男女共同参画財団